

平成 26 年度事業報告書



社会福祉法人 双樹会

目 次

法人本部	2
事業所別実績報告	
特別養護老人ホーム 陽光の家	6
陽光の家 短期入所生活介護	13
陽光の家 通所介護事業所	15
陽光の家 訪問介護事業所	18
陽光の家 居宅介護支援事業所	20
広島市城山・五日市観音地域包括支援センター	22

【法人本部】

1. 役員の状況及び理事会・評議員会・監査の開催状況

任期は、平成 25 年 8 月 9 日より平成 27 年 8 月 8 日迄

理事定数 6 名 評議員定数(理事兼務を含め) 13 名 監事定数 2 名

平成 27 年 3 月 31 日現在、すべての役員に欠員なし。なお、監事・評議員各 1 名辞任のため、平成 26 年 11 月 30 日に理事会・評議員を開催し補選が行われた。

I. 理事会

回	日時	場所	議案	出席状況 上段:理事 下段:監事
1	H26.5.17 14:55～	ナカムラ病院 研修室	(1) 平成 25 年度事業報告(案)について (2) 平成 25 年度決算(案)について	6/6 2/2
2	H26.11.29 14:15～	ナカムラ病院 ボランティアルーム	(1) 評議員の補選について (2) 定款変更について (3) 職員給与規則の変更について (4) 第1回補正予算(案)及び施設設備整備等積立金資金計画(案)について (5) 車輛購入について	5/6 1/1
3	H27.3.28 15:10～	ナカムラ病院 研修室	(1) 平成 26 年度第2回補正予算(案) (2) 平成 27 年度事業計画(案)について (3) 平成 27 年度決算(案)について (4) 規程の変更について (5) 車輛の購入について	6/6 2/2

II. 評議員会

回	日時	場所	議案	出席状況
1	H26.5.17 13:30～	陽光の家 研修室	(1) 平成 25 年度事業報告(案)について (2) 平成 25 年度決算(案)について	11/12
2	H26.11.29 13:30～	ナカムラ病院 ボランティアルーム	(1) 監事の補選について (2) 定款変更について (3) 職員給与規則の変更について (4) 第1回補正予算(案)及び施設設備整備等積立金資金計画(案)について (5) 車輛購入について	11/12
3	H27.3.28 13:30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 平成 26 年度第2回補正予算(案) (2) 平成 27 年度事業計画(案)について (3) 平成 27 年度決算(案)について (4) 規程の変更について (5) 車輛の購入について	12/13

III. 監査

・ 法人内監査

日 時：平成 26 年 5 月 9 日 午前 9 時 30 分より

場 所：特別養護老人ホーム 陽光の家 相談室

監査資料：事業実績報告書、収支計算書、事業活動計算書、仕訳伝票、預金残高証明書及び預金通帳、貸借対照表、財産目録、総勘定元帳

・ 社会福祉法人指導監査

日 時：平成 26 年 9 月 26 日

場 所：特別養護老人ホーム 陽光の家 会議室

指導監査吏員：広島市健康福祉局監査指導室 監査担当職員 3 名 高齢福祉課 2 名

監査内容：法人運営、資産・会計管理、人事労務関係、施設管理等

実施結果：平成 27 年 3 月 10 日付 文書指摘事項 1 件 平成 27 年 3 月 30 日 改善措置報告書提出

2. 施設整備等

時期	内容	場所	金額
5 月	機能訓練機器 3 台	通所介護	1,501,200 円
11 月	移乗用リフト 3 台	特養	876,960 円
	移乗機器 1 台	〃	202,750 円
1 月	送迎車輛 10 人乗り	通所介護	2,700,000 円
2 月	昇降ユニット付き浴槽	〃	1,645,596 円
3 月	パソコン入替 3 台	特養	577,152 円
	〃 1 台	居宅	151,632 円
	〃 2 台	地域包括	442,800 円
	シュレッダー入替 1 台	特養	251,640 円
	リクライニング車いす 1 台	〃	165,000 円
合計			8,514,730 円

3. 職員研修実施状況

I. 施設内研修一覧

日付	研 修 名	講師・発表者	人数
6/6	介護保険制度	地域包括センター長	15
6/27	認知症に関する基礎知識	認知症介護指導者	25
7/4	事例発表「特養生活から在宅生活へ」	特養 生活相談員	14
7/17	実践介護技術「トランスファーについて」	理学療法士	14
8/22	事例発表「夫の急死から独居となった認知症のある方の在宅生活を支えている事例」	地域包括 主任介護支援専門員	22
9/12	中国地区老人福祉施設研修大会 報告会	研修大会参加者2名	18
9/26	事例発表「個別機能訓練について」	理学療法士	35
	事例発表「介護保険の生活援助の範囲を超えた「掃除」を要求される利用者」	訪問介護 サービス担当責任者	
10/3	食中毒・感染症予防研修会	特養 看護職	34
10/24	接遇マナー研修	外部講師	46
10/30	ケアマネジメント研修	介護支援専門員3名	21
11/13	リスクマネジメント研修	事務長	31
11/21	事例発表「居宅生活の継続を目指して家族・医療・サービス事業者で取組んだ事例」	居宅 介護支援専門員	35
	事例発表「不測の事態が起こった時」	給食 管理栄養士	
12/5	感染予防	外部講師	33
	身体拘束と虐待	特養 介護職リーダー	
2/12	看取りケアにおけるポジショニングとケア技術について	通所 看護職 外部業者	14
2/20	認知症介護研修報告会	研修受講者3名	21
3/13	福祉用具を実際に使用してみよう	理学療法士	16
3/20	ターミナルケア	特養 看護職主任	33
4/28	特養勉強会「施設理念とパーソンセンタードケア」	特養・介護職リーダー	11
5/27	特養勉強会「アルツハイマーについて」		6
6/27	特養勉強会「食事介助と口腔ケア」		7
8/30	特養勉強会「認知症体験学習」		9
9/19	特養勉強会「水分摂取の必要性」「脳血管性認知症」		7
12/5	特養勉強会「身体拘束と虐待」		11
1/26	特養勉強会「ストレスケア」		7
2/26, 27	特養勉強会「入浴介助」		7
3/7	特養勉強会「排泄介助」①		4
3/19	特養勉強会「排泄介助」②		5
日	研修名	講師	人数
6/19	初級研修「法人経営の仕組みとQCDの実践について」	外部講師： (有)コンサルティングブレイン 縫部 毅 氏	22
8/28	初級Ⅱ中堅(5年目以上)「改善活動(問題発見⇒KPT)研修」		7
10/16	考課者研修「部下指導の悩み解決」		11
1/29, 3/25	初級・中級研修「ホスピタリティと利用者満足」		54

II. 施設外研修受講一覧(抜粋)

時期	研修名	実施機関	人数	職種
5~12月	広島県介護支援専門員 更新研修課程ⅠⅡ	広島県シルバーサービス振興会	2	居宅・包括 介護支援専門員
通年	広島市認知症介護実践研修「実践者研修」	広島市老人福祉施設連盟	2	特養 介護 看護
通年	広島市認知症介護実践研修「実践者リーダー研修」	広島市老人福祉施設連盟	1	特養 介護
6/30	社会福祉法人事務研修会	広島市監査指導室	1	事務長
7/14	特定高齢者に対する転倒予防事業の実施について	広島市介護保険課	1	通所 理学療法士
7/15	施設サービス計画研修会	広島市介護保険課	1	特養 介護支援専門員
9/4,5	中国地区老人福祉施設研究大会	中国地区老人福祉施設協議会	2	特養 介護、通所 介護
9~12月	介護支援専門員実務従事者基礎研修	広島県シルバーサービス振興会	1	包括 介護支援専門員
9月	平成26年度介護福祉士実習指導者講習会	日本介護福祉士会	1	特養 介護
10/22	看取りケアにおけるポジショニングの重要性と、医療職のケア技術	広島市老人福祉施設連盟	1	通所 看護
10/24,31	介護予防ケアマネジメント指導者研修	広島市介護保険課	1	包括 介護支援専門員
11/10	広島市地域包括支援センター職員研修会	広島市高齢福祉課	1	包括 保健師
11/17	居宅介護支援事業所管理者研修	広島市介護保険課	1	居宅 管理者
12/11,12	地域ケア会議運営に係る実務者研修	厚生労働省老健局振興課	1	包括 介護支援専門員
12/23	高齢者施設におけるリスクマネジメント	広島市老人福祉施設連盟	2	特養・通所 生活相談員
12/24	擁護者による高齢者虐待への対応	広島市高齢福祉課	1	包括 社会福祉士
1/23	給食施設従事者研修	広島市保健所	1	給食 管理栄養士
1/27	平成26年度広島市地域包括支援センター活動発表会	広島市高齢福祉課	4	包括 職員
1/29,30	老人福祉施設におけるリハビリテーションのためのケア技術	広島市老人福祉施設連盟	1	通所 機能訓練指導員
2/2	社会福祉法人役員等研修	広島市監査指導室	2	監事 事務長
2/3	施設長・事務担当者研修	広島市老人福祉施設連盟	1	事務長
2/19	平成26年度事例研究発表会	広島市老人福祉施設連盟	2	特養 介護
2/19	平成26年度地域包括ケア推進研修会	中国ブロック地域包括支援センター協議会	1	包括 センター長
3/13	高齢者虐待の防止及び早期発見～日頃の業務から見直そう～	広島市介護保険課	2	通所 相談員 訪問 サ責

5. 実習生受入れ状況

前年度 6 団体 30 人から 5 団体 7 人へ減少。

	実習依頼元	実習期間	人数	備考
1	広島福祉専門学校	H26.11.17～H26.11.29	1	介護福祉士1年
2	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	H26.11.10～H26.11.22	1	相談援助実習 3年
		H26.11.24～H26.12.6	1	相談援助実習 3年
3	IGL健康福祉専門学校	H26.5.12～H26.5.24	1	介護福祉士2年
		H26.10.20～H26.11.1	1	介護福祉士1年
4	福祉キャリアセンター	H26.7.1～H26.7.9	1	介護職員実務者研修
5	介護労働安定センター	H26.9.16～H26.9.18	1	介護職員実務者研修
	合計	6団体	7	人

6. ボランティア受入れ状況

【定期】

活動	部署	活動日時
生花クラブ	特養・通所	毎月 1 回
書道クラブ	通所	毎月第 4 火曜日
施設・園庭清掃		4 月 6 日
話し相手・歌など	特養	毎週火曜日
シーツ交換	〃	毎週月曜日

【演芸】

来園日	内容	合計人数
7/12、12/23	歌・踊り	11 人
4/18・7/23・12/20	大正琴	6 人
9/7(敬老会)	手品他	1 人
11/8	歌・踊り	8 人
12/1	〃	10 人
3/16	〃	5 人

7. 家族介護教室の開催

平成 26 年度広島市受託家族介護教室として、以下のとおり開催。

日 時：平成 26 年 8 月 24 日(日) 10:00～11:30

場 所：特別養護老人ホーム 陽光の家

内 容：ころばぬ先の杖(転倒予防教室)

講 師：陽光の家通所介護事業所 理学療法士

参加者：23 人(介護家族：23 人 近隣援助者等：0 人 入所者：0 人)

事業所別実績報告

1. 特別養護老人ホーム 陽光の家

I. 入所者の状況

(ア) 年間入所者の推移

26 年度の年間入退所数は 15 人。退所者の内訳は、死亡退所 9 人(6 人が施設において看取り、3 人は協力病院等にて死亡)、長期入院による退所 6 人となった。前年度対比 5 人増。延べ利用者数は、特養入所者 17,706 人、空床 544、内 97 を短期入所として利用、合計 17,803 人で前年度より 143 人減。稼働率は、97.6%で前年度 0.7%減少し、1 日当り 48.8 人が利用したこととなった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末在籍数	50	49	50	48	49	49	49	50	50	50	49	50	
入所	0	2	2	1	2	1	2	4	0	0	0	1	15
退所	0	3	1	3	1	2	1	3	0	0	1	0	15
延べ利用者数	1,463	1,469	1,474	1,495	1,463	1,451	1,480	1,442	1,543	1,539	1,376	1511	17,706
空床利用	23	30	17	0	7	0	9	6	5	0	0	0	97
合計	1,486	1,499	1,491	1,495	1,470	1,451	1,489	1,448	1,548	1,539	1,376	1,511	17,803
26年度	99.1	96.7	99.4	96.5	94.8	96.7	96.1	96.5	99.9	99.3	98.3	97.5	97.6
1日平均実績	49.5	48.4	49.7	48.2	47.4	48.4	48.0	48.3	49.9	49.6	49.1	48.7	48.8
前年度実績	1,448	1,544	1,480	1,509	1,528	1,500	1,525	1,496	1,526	1,494	1,372	1,524	17,946
対比	38	▲ 45	11	▲ 14	▲ 58	▲ 49	▲ 36	▲ 48	22	45	4	▲ 13	▲ 143

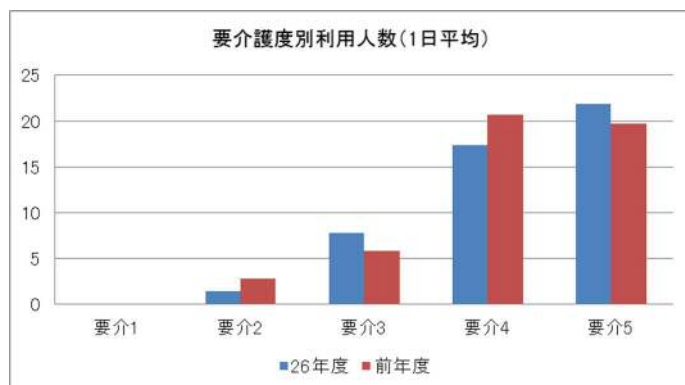
空床の内訳は、以下のとおり。入院は帰園できた者、死亡退所は死亡日翌日から次の入所者の入所前日までの日数。年間入院者は 11 人、うち帰園できた入院者は 3 人であった。退所日から新入所までの延べ日数は 217 日で、1 人当り 15.5 日となった。

	外泊	在宅復帰	入院	入院退所	死亡退所	合計
26年度	0	0	72	334	138	544
前年度	3	20	195	225	36	479

(イ) 要介護度別利用者人数(1日平均)

平成 27 年 3 月末現在、50 名の入所者のうち 40 名が要介護 4 以上。年間平均介護度は、4.23 で前年より 0.03 高くなった。

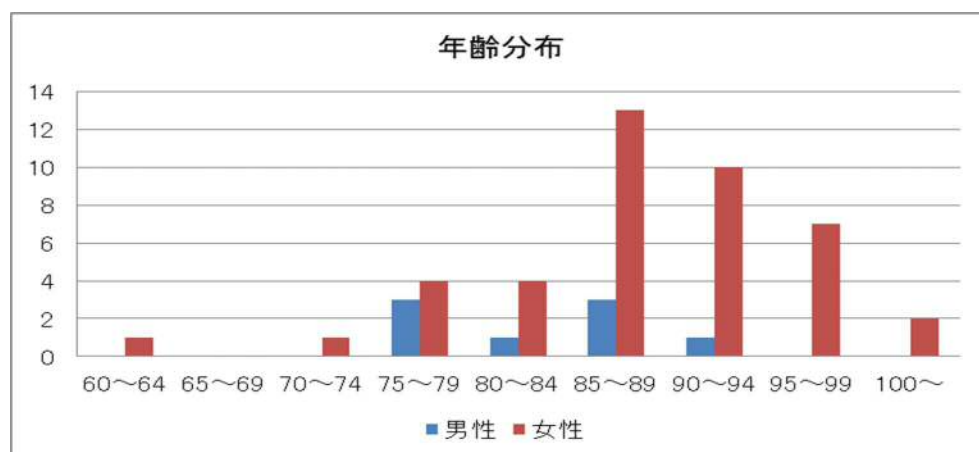
	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均介護度
26年度	0.0	2.8	5.8	20.7	19.7	49.0	4.23
前年度	0	1.4	7.8	17.4	21.9	48.5	4.20
対比	0.0	1.4	▲ 2.0	3.3	▲ 2.2	0.5	0.03



(ウ) 入所者年齢別及び平均年齢（平成 27 年 3 月末日現在）

男性と女性の入所人数は、前年と同じ。平均年齢は、86 歳 11 ヶ月から 87 歳 9 ヶ月へ延び、最高年齢者は、99 歳 2 ヶ月から 100 歳 2 ヶ月となった。

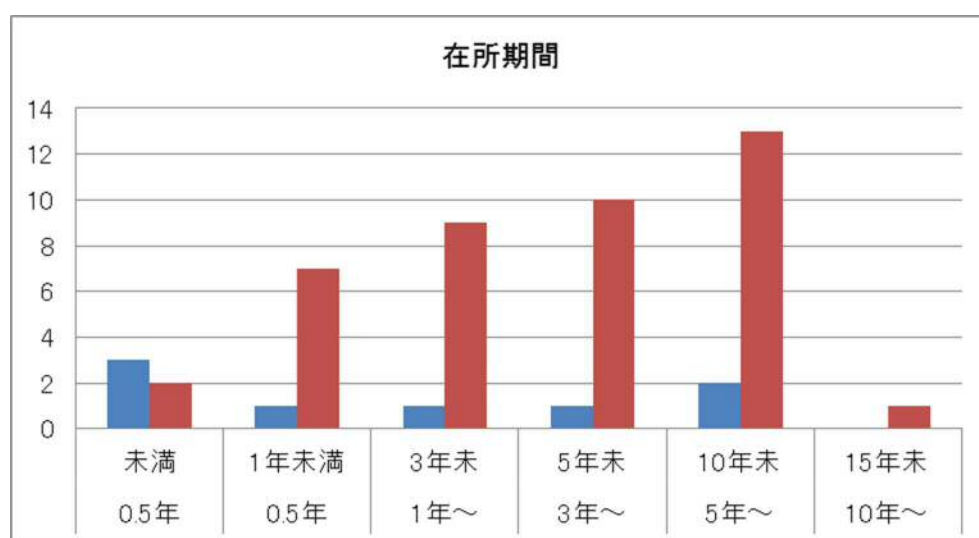
歳	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計	平均
男性	0	0	0	3	1	3	1	0	0	8	83歳3月
女性	1	0	1	4	4	13	10	7	2	42	88歳8月
合計	1	0	1	7	5	16	11	7	2	50	87歳9ヶ月
最高年齢	100歳2ヶ月		最小年齢		64歳8ヶ月						



(エ) 入所者在所期間（平成 27 年 3 月末日現在）

平均在所期間は、前年度の平均在所期間 3 年 10 ヶ月から 3 年 5 ヶ月へ 5 ヶ月短くなった。前年の最長在所者は、男女共退所となり、男性 7 年 2 ヶ月・女性 11 年 1 ヶ月となった。

期間	0.5年未満	0.5年1年未満	1年～3年未	3年～5年未	5年～10年未	10年～15年未	合計	平均
男性	3	1	1	1	2	0	8	3年7ヶ月
女性	2	7	9	10	13	1	42	2年7ヶ月
合計	5	8	10	11	15	1	50	3年5ヶ月
最長在所	11年1ヶ月		最短在所		0ヶ月			



(オ) 保険者別人数 (平成 27 年 3 月末日現在)

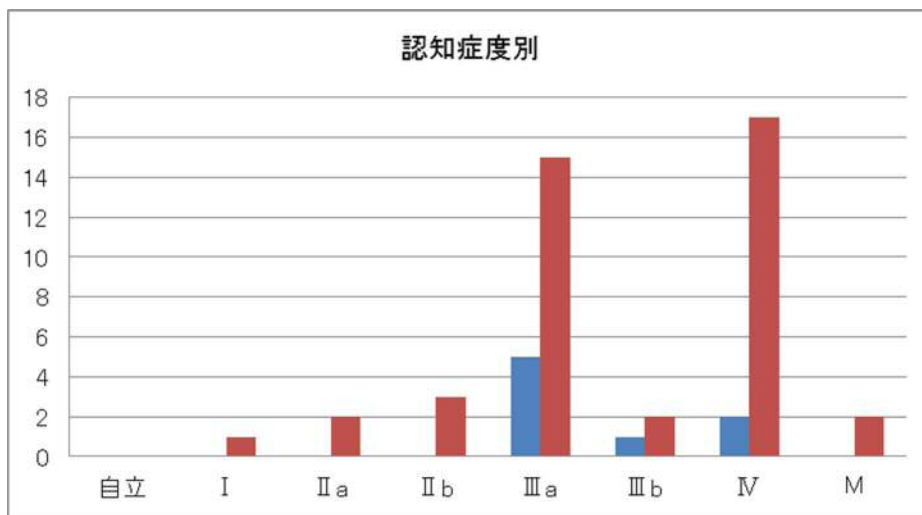
前年同日と比べ西区1人、安佐南区が 2 人新たに加わり、南区と廿日市が減少した。佐伯区の占有率は 78%。

保険者	佐伯区	西区	安佐南区	廿日市	上関町	合計
男性	7	1	0	0	0	8
女性	32	5	3	1	1	42
合計	39	6	3	1	1	50

(カ) 認知症度別人数 (平成 27 年 3 月末日現在)

下記の表のとおり、50 名の入所者のうち 45 名が認知症度Ⅲ以上。

認知症度	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男性	0	0	0	0	5	1	2	0	8
女性	0	1	2	3	15	2	17	2	42
合計	0	1	2	3	20	3	19	2	50



(キ) 入所申込者の状況

平成 27 年 3 月末日の申込者数は 473 人。平成 26 年度 1 年間の申込者数は 80 人、取り下げが 213 人であった。平成 27 年 4 月から要介護 3 以上が入所対象となることで、案内文書を送付したところ、死亡や他施設入所の連絡が入ったため取り下げ数が増加したものの、申込者の介護度分布は下表のとおり。

介護度	1	2	3	4	5	合計
平成26年3月末	93	160	138	121	94	606
平成26年度申込数	7	14	23	15	21	80
平成26年度取り下げ数	32	61	48	36	36	213
平成27年3月末	68	113	113	100	79	473

II. 職員の状況

実数では、期首(4月)45名から期末(3月)51名と6名増。介護職の非常勤職員が7名増加、正看護師及び機能訓練指導員の専任職員を新たに配置。

()内は法人内異動数

特養・短期入所 職種	平成26年度期首(4月)			H26年度期中		平成26年度期末(3月)			配置 基準
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算	
施設長	1		1			1		1	1
医師	1	1	0.1			1	1	0.1	1
生活相談員	1		1			1		1	1
介護支援専門員	1		1			1		1	1
機能訓練指導員			0.2	1(1)		1		1	1
看護職	5	2	3.9	1(1)	1	5	2	4	2
内 訳	正看護師	0		0	1(1)	0	1	0.8	
	准看護師	5	2	3.9	0	1	4	3.2	介護・看護
介護職	23	2	22.3	17(2)	12	28	9	23.2	17
内 訳	介護福祉士	13	1	12.6	6	6	13	12.1	
	その他	10	1	9.7	11(2)	6	15	11.1	
管理栄養士	1		1			1		1	1
調理員	6	1	5.8	1	1	6	1	5.6	
用務員									
当直専門員	3	3	1.5	1	1	3	3	1.5	
事務員	3	1	2.7			3	1	2.7	
小計	45	10	40.5	21(4)	15	51	17	42.1	

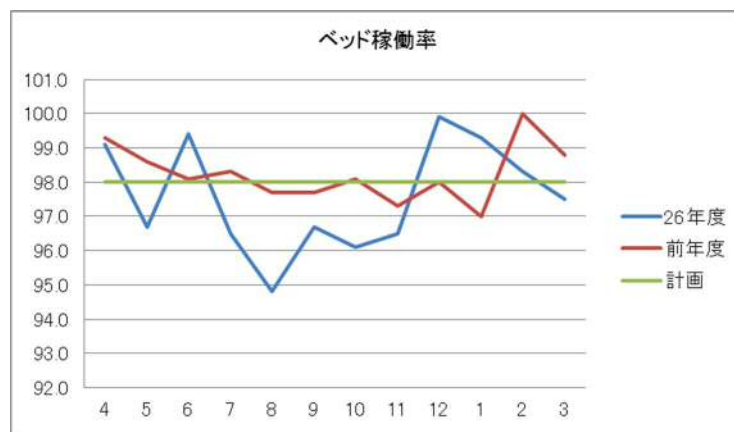
III. 事業計画の実施状況について

特養部門 平成 26 年度部門目標

- (ア) ベッド稼働率 98%
- (イ) 一人一人の意思と人格を尊重し、チームケアで自立支援を実践
- (ウ) 施設サービス計画の作成・実践・評価の徹底
- (エ) 腰痛予防、抱えない介護の実践
- (オ) 地域との連携・地域貢献

(ア) ベッド稼働率 98%・・・実績 97.6%

年度当初より、急変者・長期入院者の発生により目標値に届かず。



(イ) 一人一人の意思と人格を尊重し、チームケアで自立支援を実践

- 介護アセスメントの作成
ユニット毎に介護アセスメント作成。必要に応じて再アセスメントを行ってゆく。
- ケアプランの実践
個別ケアの実践内容については、個別の介護手順書を作成。引き続き内容を検討しながら、ユニット内の職員の情報共有を進めてゆく。
介護モニタリングについては、居室担当で実施。パート職員も含めたユニット全員で実施する方法をとるユニットもあり。
- 自立支援介護の実践
「水分摂取」「歩行と排泄」「認知症ケア」「食事」など各委員会で勉強会を開催。
- 個別機能訓練の実施
平成 27 年 1 月から、専任の機能訓練指導員(理学療法士)を 1 名配置。個別機能訓練計画を作成し、順次訓練を開始。
- 家族及び家族会活動との連携
入所者に変化が起こった時の連絡・報告はもちろんのこと、日常的な生活状況や健康状態の連絡については、毎月 1 回利用料請求時に、担当介護職・看護職・栄養士からの状況報告(「ようこうファミリー」)を個別に作成し報告している。家族会活動は、家族会総会で承認を受けた事業計画に沿って下表の行事を実施した。

月日	行 事	家族参加数
4.13(日)	家族会総会	19 人
5.18(日)	開設記念日(26 周年)	39 人
6.27(金)	ランチブッフェ(広島グランドプリンスホテル)	4 人
7.26(土)	夏祭り	47 人
9.7(日)	敬老会	42 人
12.13(土)	もちつき・忘年会	53 人

(ウ) 施設サービス計画の作成・実践・評価の徹底

- ・ アセスメント 53 件
- ・ 計画書作成 229 件
- ・ モニタリング 593 件
- ・ カンファレンス 136 件

ケアプランの実践

- ・ 業務の関係上日程調整がつかず、計画作成に対してカンファレンスの実施回数が少なくなった。看取り移行や状態変化の場合は、必ず家族・医師及び各専門職の参加でカンファレンスを実施した。
- ・ ケアプランをより具体化した行動記録票(○×表)を利用者全員分、毎月作成しており、日々介護職によりチェック、1 か月単位で各部屋担当を中心にモニタリングを行い、介護支援専門員の視点からの評価と併せ、総合的にモニタリングとしてきた。
- ・ モニタリングを重ねていくうちに各専門職からの意見が多く出るようになり、それがプラン変更の根拠となり再アセスメントに結びついて行った。

(エ) 腰痛予防、抱えない介護の実践

平成 26 年 11 月にベッドから車椅子等に移乗する際に使用する床走行式電動介助リフト「ミクニ マイティライトⅢ」を 3 台、車椅子型移乗器「乗助さんⅡ」1 台配置。スライディングボードなどと合わせ、実施対象者を決め、福祉用具の使用を進める。

(オ) 地域との連携・地域貢献

認知症介護実践者研修及びリーダー研修への認知症コーディネーター派遣。

認知症介護実践リーダー研修施設実習受け入れ 2回 4名

認知症サポーター養成講座 講師派遣 2回

IV. 食事(栄養・調理)実施状況

栄養ケアプランは、カンファレンス等で情報共有しその都度食事への反映を行い、利用者本人や家族への説明を行った。これにより、利用者本人や家族および介護職から、より多くの食形態変更の希望が寄せられるようになった。また、食を通してコミュニケーションを図るように季節感のある食事の提供を行った。

(ア) 食事形態 (平成 27 年 3 月 31 日 現在)

食事形態	常食	キザミ	極キザミ	ペースト	経管栄養
食事数	10	13	17	5	2

(イ) 年間療養食加算取得状況

	貧血食	糖尿病食	心臓病食
実人数	9	5	4
延べ日数	1,941	1,561	634

(ウ) 栄養年報

区分/栄養量	エネルギー kcal	たんぱく質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA IU	ビタミンB1 mg
栄養所要量	1,513	51.4	33.4	615	6.1	673	0.9
栄養摂取量	1,423	60.8	35.7	597	7.6	477	0.8

栄養所要量(計画) 栄養摂取量(実績)

(エ) 行事食等

内容		実施日	内容		実施日
開設記念日	バイキング	5/18	忘年会	寄せ鍋・餅つき	12/13
土用の丑の日	うな重	7/29	新年互礼会	松花堂弁当	1/1
夏祭り	バイキング	7/26	新年	雑煮	1/2
敬老会	松花堂弁当	9/7	節分	巻きずし	2/3
お彼岸	おはぎ	9/24・3/24	雛祭り	雛様寿司	3/3
物故者慰霊祭	精進料理	11/5	選択食		3/11

V. 防災訓練等

(ア) 自衛消防訓練実施状況

実施日	訓練内容	参加者				備考
		入所者	通所	職員	計	
6.19	総合訓練(夜間想定)	35	8	23	64	消防職員・2名立会
11.12	総合訓練(夜間想定)	28	5	25	58	〃

(イ) 非常食備蓄状況 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

種類	水	主食			副食	
		ご飯	粥	パン(缶)	レトルト食品	缶詰
数量	20×306本	210食	218食	24食	250食	200食

職員・協力者用別途備蓄 90食

VI. 広島市受託事業

生活指導短期宿泊事業は、利用者なし。

受託業務名	実績金額	実利用者	延べ利用者
広島市重度身体障害者入浴サービス事業	324,150	2	102
広島市生活指導短期宿泊事業	0	0	0

VII. 苦情について

平成 26 年度は、苦情報告なし。

VIII. 介護事故の発生について・・・1件発生

平成27年3月31日(火) 15:50頃

女性入所者がおやつの時間、ユニットフロアにて、車椅子より転落。頭部2か所裂傷。外科受診。脳に異常なし。

当日は、昼食時より車いす上で左右への傾きが見られ、その都度安定するように体勢を修正していたが、おやつ時は傾きを認識していながら対応がおろそかになっていたため。車いす上での体動が見られる場合は、見守りできる位置での介助を行う。理学療法士と相談し、車いすを入れ替えたり、補助具の利用を進める。

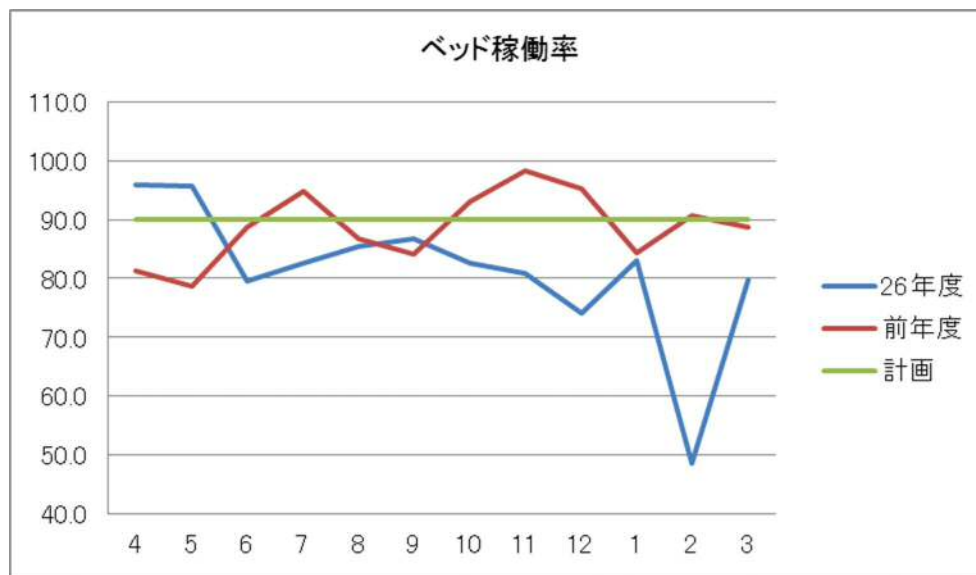
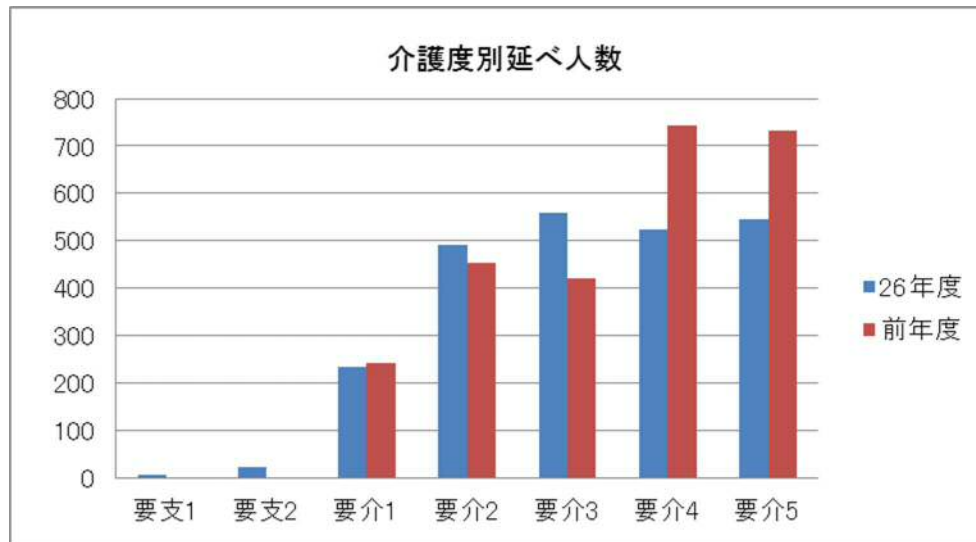
2. 陽光の家 短期入所生活介護事業所

短期入所事業所は、特養と一体的に事業所運営を行っている。

1. 利用者の状況

26 年度は、新規契約者 32 人 廃止 18 人。月平均実利用者は、29.2 人、前年対比▲2.0 人。延べ利用者数の前年対比は▲211 人、ベッド稼働率は 87.7%から 81.3%へ▲6.4%となった。100%を上限とする退所日を含まない稼働率は 59.1%、前年比▲7.5%。計画稼働率を達成した月が、25 年度 5 ヶ月に対し、26 年度は 2 ヶ月であった。これは、要介護 4・5 の定期利用者の廃止、入院による減少が大きく影響している。

介護度	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均		
									介護度	実利用者	稼働率
26年度	5	22	233	491	560	523	545	2,379	3.0	29.2	81.3
%	0.2	0.9	9.8	20.6	23.5	22.0	22.9	100			
前年度	0	0	242	454	421	742	731	2,590	3.0	31.2	87.7
%	0.0	0.0	9.3	17.5	16.3	28.6	28.2	100			
対比	5	22	▲ 9	37	139	▲ 219	▲ 186	▲ 211	0.0	▲ 2.0	▲ 6.4



II. 事業計画の実施状況について

短期入所部門 平成 26 年度部門目標

- | |
|---|
| (ア) ベッド稼働率 90%
(イ) 在宅介護の継続支援(定期的・緊急時の利用対応)
(ウ) 短期入所生活介護計画の作成・実践・評価の徹底 |
|---|

(ア) ベッド稼働率 90%・・・実績 87.7% 内容上記利用者の状況参照

(イ) 定期的な利用による在宅介護の継続支援(定期的・緊急時の利用対応)

定期利用者は月平均 30 名(男性 10 名、女性 20 名)、緊急利用は 4 名(男性 1 名、女性 3 名)、いずれも主介護者の緊急入院であった。

(ウ) 短期入所生活介護計画の作成・実践・評価の徹底

担当ケアマネジャーからのサービス計画書を基に計画書を作成。本人・家族に説明、同意ののち署名をいただく。本人用のケースファイルに綴じて、職員がいつでも閲覧できるようにし、日々の業務に活かす。体調変化・介護度変更(更新・区分変更・新規等)により担当者会議内にて評価を伝え、更新・変更等により新たな短期入所介護計画書を作成し、本人及び家族に伝える。

IV. 苦情について

No.	受付日	内容	対応
1	8/21	前回の利用時に職員より「〇〇さんは利用期間が長いから、奥さんに相談して短くしてもらったら」と言われたことを本人が家に帰って奥さんに伝えたことに対して、今回利用の迎えの時、奥さんより「私も用事があり利用日を決めている。」と憤慨され、改善をもとめられた。	生活相談員より謝罪し、帰園後担当ユニット介護職リーダーに申し送り。リーダーより該当職員へ事実の確認をし、注意する。他の職員へも事実を周知し、同様の苦情が起らないように徹底する。

3. 陽光の家 通所介護事業所

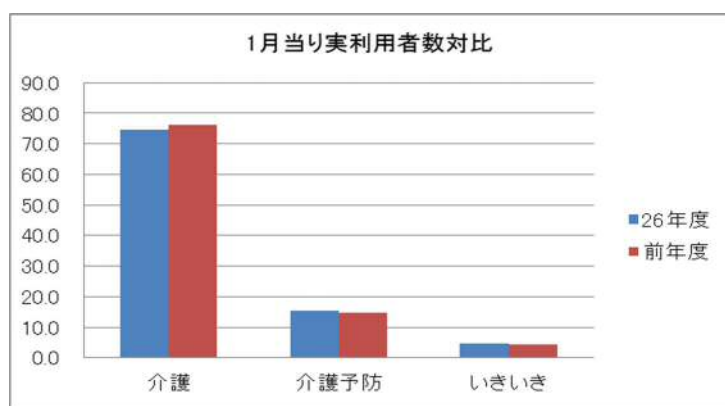
通所介護事業所は、指定通所介護事業、指定介護予防通所介護事業及び広島市高齢者いきいき活動支援通所事業、広島市生活機能維持向上事業を受託。

I. 利用者の状況

(ア) 1月当たり平均実利用者数

平成 26 年度の新規契約者は 34 人(うち介護 28 人、介護予防 6 人)廃止 30 人。1 月当りの平均利用者数は、合計 0.6 人の減となった。

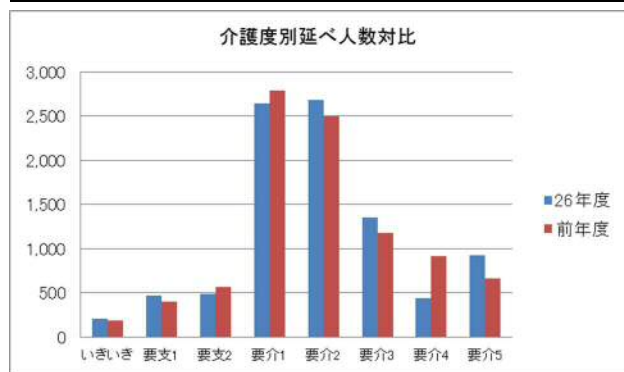
	介護	介護予防	いきいき	合計
26年度	74.6	15.3	4.7	94.6
前年度	76.2	14.6	4.4	95.2
対比	▲ 1.6	0.7	0.3	▲ 0.6



(イ) 介護度別延べ人数対比

延べ人数は、前年度から 12 人増、1 日当りの利用人数は 25.2 人で前年と同数となった。介護度別では、要介護1・4が減少し、要介護2・3・5が増加している。利用者数は、7月までは目標数値を超えていたが、8月以降利用日数多い利用者の廃止が出て、年度中盤以降利用者数が伸び悩んだ。

介護度	いきいき	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	1日平均利用者
26年度	208	467	487	2,641	2,681	1,356	439	925	9,204	25.2
%	2.3	5.1	5.3	28.7	29.1	14.7	4.8	10.0	100.0	
前年度	187	404	567	2,784	2,493	1,180	919	658	9,192	25.2
%	2.0	4.4	6.2	30.3	27.1	12.8	10.0	7.2	100.0	
対比	21	63	▲ 80	▲ 143	188	176	▲ 480	267	12	



(ウ) 時間帯別延べ利用者数と夕食サービス利用者

時間帯別の延べ利用者数は、下表のとおり。前年と対比すると、少しずつ短時間の方へシフトしている。経営基盤確保のため、報酬額の高い7～9時間のサービスを50%確保することを目標としたが、41.7%に止まった。独居者や家族の都合で夕食を提供するサービスは1,092食と前年より▲103食となった。

所要時間	3～5時間	5～7時間	7～9時間	合計	夕食サービス
26年度	882	3,818	3,359	8,059	1,092
	10.9	47.4	41.7	100	
前年度	825	3,712	3,494	8,031	1,195
	10.3	46.2	43.5	100.0	

II. 職員の状況

生活相談員1名と介護職1名は、居宅介護支援事業所の介護支援専門員を兼務している。

()内は法人内異動数

通所介護 職種	平成26年度期首(4月)			H26年度期中		平成26年度期末(3月)			配置 基準	
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算		
生活相談員	2	1	1.6			2	1	1.6	1	
看護職	2	1	1.8	4	3(1)	3	1	2.8	1	
内 訳	正看護師	1	1	0.8	3	3(1)	1	1	0.8	
	准看護師	1		1	1	0	2		2	
機能訓練指導員	1		1	1	1(1)	1		1	1	
介護職	10	4	7.9	3	3(1)	10	3	8.9	5	
内 訳	介護福祉士	6	1	5.9	3	1	8	2	7.3	
	その他	4	3	2	0	3(1)	2	1	1.6	
運転手	2	2	0.2			2	2	0.1		
小計	17	8	12.5	8	7(3)	18	7	14.4		

III. 事業計画の実施状況について

通所介護部門 平成26年度部門目標

(ア) 1日の平均利用者数 26人(介護・予防・いきいき活動・生活機能含む)

(イ) 自立支援の向上(食事、入浴、排泄、趣味活動等)

通所介護計画・個別機能訓練計画の作成・実践・評価の徹底

(ウ) 介護予防・生活機能向上のための個別機能訓練の充実

(エ) 家族との情報交換(家族会の開催)

(ア) 1日の平均利用者数 26人(介護・予防・生きがい活動含む)・・・実績 25.2人

(イ) 自立支援の向上(食事、入浴、排泄、趣味活動等)

通所介護計画・個別機能訓練計画の作成・実践・評価の徹底

① 基本サービスの理解と実践

マニュアルの見直し、周知(食事、口腔ケア、排泄、入浴)

介護技術勉強会実施(移動移乗6月、排泄8月、入浴9・10月)

② ケアプラン・通所介護計画書の理解と実践

勉強会実施(2月) 普段からのケアプラン、計画書の周知がまだ不十分。カンファレンスは定期的に実施。

③ 楽しく飽きないレクリエーション

集団レクについては年間計画通りに実施。個別レクメニューがまだ少ない。

④ お風呂の楽しみがある

利用者面接聞き取り 15 名実施。聞き取りにて、要望等はサービス改善を行う。

⑤ 出会いと交流の輪が広がるデイ

勉強会実施(1月)。接遇教育、サービス業としての意識、介護職従事者としての基本姿勢の確認を行う

(ウ) 介護予防・生活機能向上のための個別機能訓練の充実

平成 26 年度の個別機能訓練加算の算定状況は、個別機能訓練加算(Ⅰ)が年間 6,191 回で前年 5,794 回から 397 回増、加算算定率は 72.1%から 77.0%へ、1 月平均が 482.8 回から 515.9 回へ 33.1 回増加した。個別機能訓練加算(Ⅱ)は、算定対象者が居なかった。介護予防の運動機能向上加算は、前年度年間 162 人から 172 人へ 10 人増加した。

(エ) 家族との情報交換(家族会の開催)

家族との情報交換会実施(11月 8組参加) マシーン訓練体験・サービス説明会・質疑応答

III. 苦情処理状況

平成 26 年度は、苦情報告なし。

IX. 介護事故の発生について・・・1件発生

平成27年2月14日(土) 9:45頃

女性利用者が、職員指導のもと訓練室での機能訓練を終了し、デイルームへ戻る際、利用者から「右靴がゆるい気がする」との訴えあり。同職員が T 字杖を渡し、平行棒を持ってもらい立位保持の状態になる。本人が後方にある、リハビリ機器の座面に座ろうとして、完全に座りきれず転倒。左後方の壁に後頭部、左顔面をぶつけ、左ひじを下にした状態で転倒する。救急搬送。打撲程度と診断。翌日家族より、本人から左肘が痛いとの訴えがあるため、2/16(月)整形外科受診。左肘複雑骨折の診断。ギプスをして保存療法となる。

職員は短時間で右靴の状態を確認可能と判断し立位保持の声掛けをしたが、本人との意思確認が取れておらず、座り込むことへの予想ができなかった。本人の意思確認をしてから行動を起こす。必要であれば、椅子を用意し確実に座ってもらうようにする。

4. 陽光の家 訪問介護事業所

訪問介護事業所では、指定訪問介護事業、指定介護予防訪問介護事業、障害福祉サービス事業、広島市障害者(児)移動支援事業を実施。

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数と延べ訪問回数の前年対比

平成 26 年度の新規契約者数は、21 人(うち介護 7 人、介護予防 9 人、自費 4 人、障害者 1 人)廃止は 6 人であった。実利用者数の前年対比は、下表のとおり。前年度 33.9 人から 40.9 人と 7 人増加した。

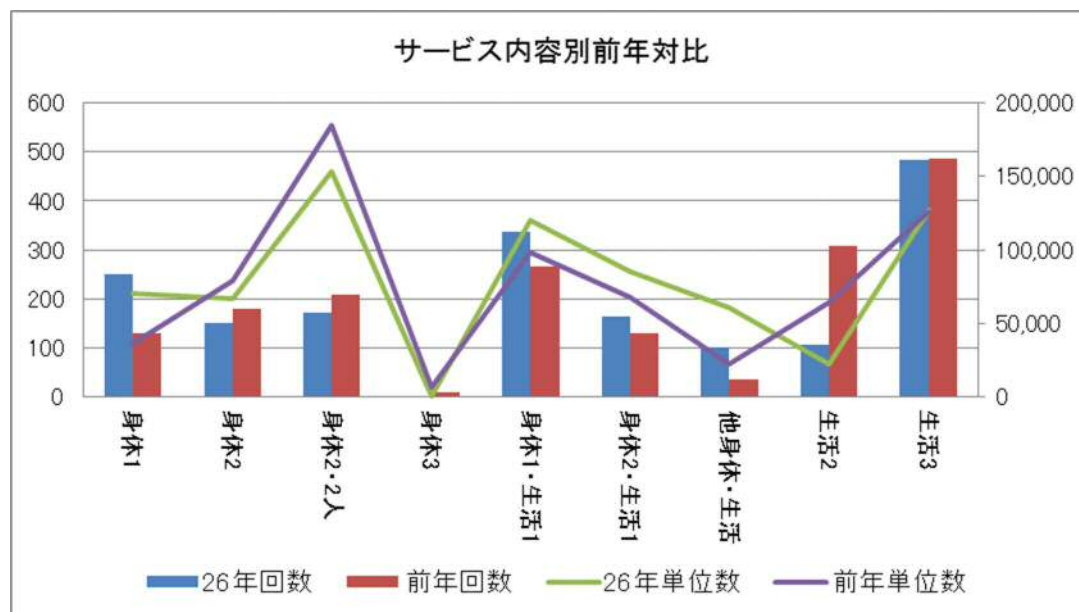
実利用者数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
26年度	37	42	41	42	42	43	39	40	41	43	41	40	40.9
前年度	29	29	32	30	32	34	35	36	37	36	38	39	33.9

26 年度期首の 4 月と 26 年度期末の 27 年 3 月の利用者の区分を対比してみると、下表のとおり要介護者が▲6 人、介護予防者が 5 人増となっている。

介護度	障害	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計
H26年4月	3	9	7	8	5	1	2	2	37
H27年3月	4	11	10	7	2	3	3	0	40
対比	1	2	3	▲ 1	▲ 3	2	1	▲ 2	3

介護保険サービス内容別訪問回数と算定単位数を前年と対比してみると、身体介護・生活援助のみのサービスから身体介護に引き続き生活援助を行う複合サービスへシフトし、デイサービスの送り出しを行う身体1が増加している。

区分	身体1	身体2	身体2・2人	身体3	身体1・生活1	身体2・生活1	他身体・生活	生活2	生活3
26年回数	250	150	172	1	336	164	100	105	484
前年回数	129	179	209	10	267	131	35	308	486
対比	121	▲ 29	▲ 37	▲ 9	69	33	65	▲ 203	▲ 2
26年単位数	70,250	66,600	152,908	646	120,288	85,444	61,154	22,050	126,880
前年単位数	35,991	79,118	184,756	6,420	98,256	67,989	22,587	64,372	125,874
対比	34,259	▲ 12,518	▲ 31,848	▲ 5,774	22,032	17,455	38,567	▲ 42,322	1,006



II. 職員の状況

平成 26 年度は、期中の入れ替わりがあったが、職員体制の大きな変化はない。

訪問介護	平成26年度期首(4月)			H26年度期中		平成26年度期末(3月)		
	職種	人数	内非常勤 常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤 常勤換算	
訪問介護員		7	5 2.7	2	2	7	5 2.7	
内 訳	介護福祉士	4	2 2.6	1	0	5	3 2.6	
	その他	3	3 0.1	1	2(1)	2	2 0.1	

III. 事業計画の実施状況について

訪問介護部門 平成 26 年度部門目標

(ア) 月延べ訪問件数 270 件(介護 170 件 予防 80 件 障害 20 件)

(イ) 在宅継続のための自立支援の実践

(ウ) 訪問介護計画の作成・実践・評価の徹底

(エ) 年間研修計画の実施

(ア) 月延べ訪問件数 270 件(介護 170 件 予防 80 件 障害 60 件)

計画と月平均の訪問件数実績対比は、以下のとおり。計画達成率は、108.2%となった。

	介護	予防	障害	合計
事業計画	170	80	20	270
実績	161	105	21	287
対比	▲ 9	25	1	17

(イ) 在宅継続支援と自立支援

独居利用者を中心に、ケアマネジャーや家族と連携を取り、在宅支援を行った。

(ウ) 訪問介護計画の作成・実践・評価の徹底

前年に引き続き、基礎的なサイクルをと実行し定期的な同行訪問による利用者との関係づくりと、サービスの質の向上のため担当ヘルパーへの助言・指導を重点的に行った。

(エ) 年間研修計画の実施

法人全体の職員研修とは別にホームヘルパーフォローアップ研修計画を立て、月 1 回行うヘルパー会議に合わせて実施した。開催内容は下記のとおり。

研修項目	実施日
平成26年度事業計画	4/8
介護保険制度の概要	5/1
窒息事故の対応	6/3
認知症について①・食中毒防止のポイント	7/1
認知症について②	8/5
生活援助について	9/3
訪問介護の流れ・訪問介護計画について	10/7
障害福祉サービスの利用とサービス等利用計画について	11/4
事故対応・危険予測	12/2
感染症について	1/6
身体介護・技術	2/3
障害者自立支援制度	3/3

IV. 苦情処理

平成 26 年度は、苦情報告なし。

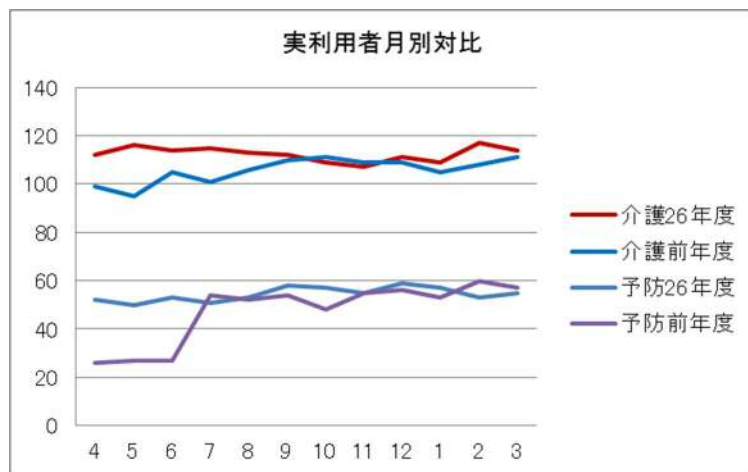
5. 陽光の家 居宅介護支援事業所

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数（介護）（介護予防 各地域包括支援センターより受託）

平成 26 年度の介護新規契約者は 43 人、廃止 20 人となった。1 月当たりの件数は、112.4 件。前年度より月平均 6.6 件増加。介護予防給付は、月平均 54.4 件。前年より 7 件増加している。

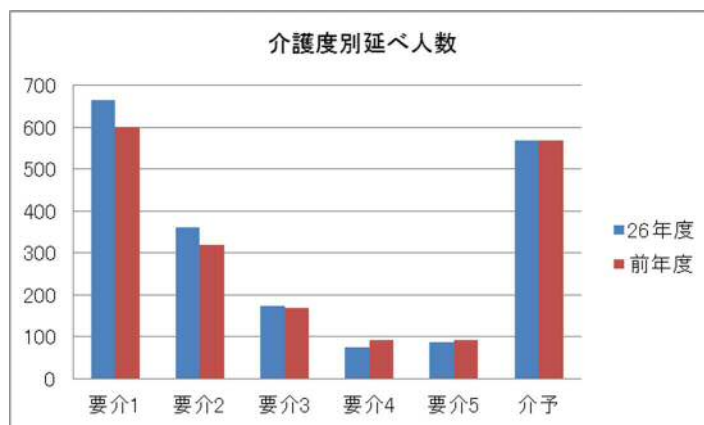
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
介護26年度	112	116	114	115	113	112	109	107	111	109	117	114	112.4
介護前年度	99	95	105	101	106	110	111	109	109	105	108	111	105.8
予防26年度	52	50	53	51	53	58	57	55	59	57	53	55	54.4
予防前年度	26	27	27	54	52	54	48	55	56	53	60	57	47.4



(イ) 介護度別延べ人数

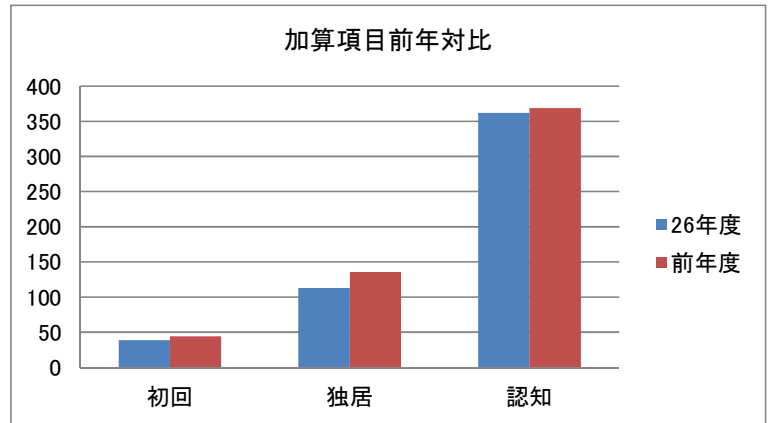
介護度は、前年対比で要介護 1・2 が 107 件増加、要介護 4・5 が 22 件減少。介護予防受託分は前年と同数となっている。

介護度	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	介予	合計	1ヶ月平均
26年度	665	361	172	75	86	569	1,928	160.7
%	34.5	18.7	8.9	3.9	4.5	29.5	100	
前年度	600	319	167	91	92	569	1,838	153.2
%	32.6	17.4	9.1	5	5	31	100	
対比	65	42	5	▲ 16	▲ 6	0	90	



(エ) 加算項目前年対比

	初回	独居	認知
26年度	39	113	362
前年度	44	136	369
対比	▲ 5	▲ 23	▲ 7



II. 職員の状況

専任職員 3 人と兼務職員 2 人でスタート。5 月に通所介護との兼務職員を増員、専任 3 名と兼務 3 名の 6 名体制とし、常勤換算では 0.1 人増員となった。

居宅介護支援 職種	平成26年度期首(4月)			H26年度期中		平成26年度期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算
介護支援専門員	5	2	3.8	1	0	6	3	3.9

III. 事業計画の実施状況について

居宅介護支援部門 平成 26 年度部門目標

- (ア) 介護給付 120 名 予防給付 60 名
 (イ) 自立支援型ケアマネジメントの実践(要介護度の維持・改善)
 (ウ) 主治医・病院・地域包括支援センターとの積極的な連携

(ア) 介護給付 120 名 予防給付 60 名

介護給付費 実績 112.4 件 達成率 93.7% 25 年度実績より 6.6 件増加
 予防給付 実績 54.4 件 達成率 90.7% 25 年度実績より 7.0 件増加

(イ) 自立支援型ケアマネジメントの実践(サービス事業者との連携)

サービス事業所との協働により、利用者の在宅生活の継続ができ、介護度変更時7割の利用者が、現状維持または改善することができ、重度化予防ができた。24 時間 365 日の相談対応で、利用者の安心を獲得でき在宅生活の継続ができた。

(ウ) 主治医・病院・地域包括支援センターとの積極的な連携

利用者の入院中から病院関係者と支援を協働で始めることで、円滑な退院およびサービスの導入ができるようになった。地域包括支援センターの相談ケースにも積極的に対応することで、新規利用者の獲得につながった。

IV. 苦情処理

平成 26 年度は、苦情等なし。

6. 広島市城山・五日市観音地域包括支援センター

I. 事業実施状況

事業実施場所：広島市佐伯区千同一丁目 30-6 高東ビル1階

圏域：広島市立城山中学校及び同五日市観音中学校 校区内

圏域高齢者人口：7,594 人 高齢化率:24.0% (平成 26 年 11 月現在)

		八幡	観西	観音	合計
高齢者人口(人)	H26.11	3,056	1,990	2,548	7,594
	H25.11	2,966	1,765	2,217	6,948
	対比	90	225	331	646
高齢化率(%)	H26.11	27.1	24.1	21.0	24.0
	H25.11	26.3	22.7	20.8	23.4
	対比	0.8	1.4	0.2	0.6

広島市受託事業

受託業務名	26年度	25年度	対比
広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)	24,579,000	24,493,000	86,000
広島市特定高齢者把握事業(単価契約)	452,160	408,300	43,860
広島市地域介護予防推進事業(単価契約) 1回60,000円×24回	1,440,000	1,440,000	0
広島市高齢者いきいき活動支援訪問事業(単価契約)	0	0	0
合計	26,471,160	26,341,300	129,860

① 広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)

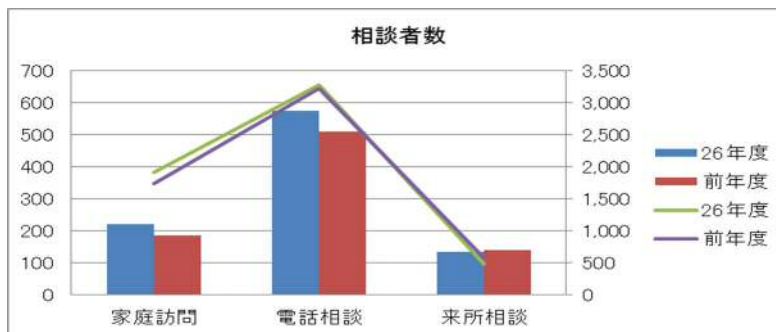
介護予防ケアマネジメント事業・・・特定高齢者把握事業

総合相談・支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント事業

ア. 相談件数

前年と対比すると、実人数で 11.6%、延べ人数では 2.4%増加。相談方法は、いずれも電話が最も多い。職員が、電話の初期対応において課題を分析し対応できる能力ができ、同一事案に係る回数が減少傾向にある。

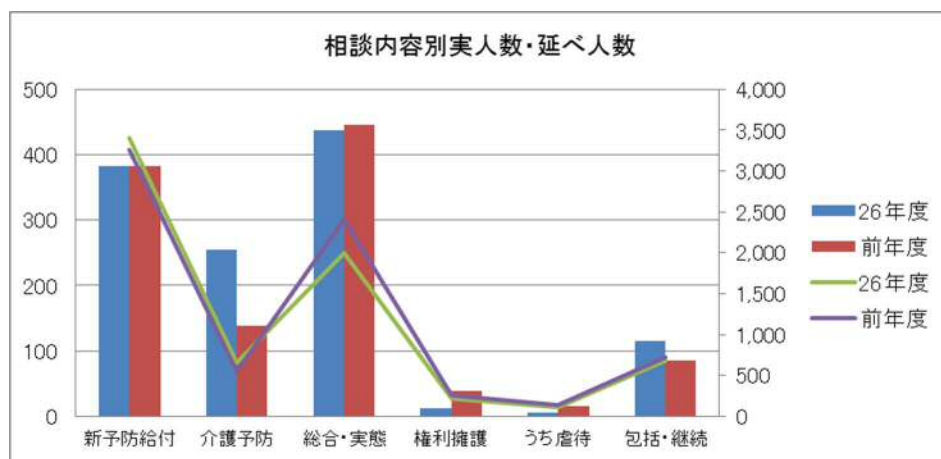
相談方法	実人数			延べ人数		
	26年度	前年度	対比	26年度	前年度	対比
家庭訪問	221	186	35	1,918	1,734	184
電話相談	575	509	66	3,275	3,230	45
来所相談	135	139	▲ 4	487	582	▲ 95
合計	931	834	97	5,680	5,546	134



イ. 相談内容

実人数では総合相談・実態把握が最も多く全体の 36.4%を占め、延べ人数では、介護保険制度の要支援1及び2の方への介護予防給付に関することが最も多く49.0%を占める。平成 26 年度から新たに事業(地域ケア会議・医療と介護の連携・介護支援専門員に対する支援)が追加され、包括的支援事業業務が減少している。

	実人数			延べ人数			
	26年度	前年度	対比	26年度	前年度	対比	
介護予防支援業務(新予防給付)	383	382	1	3,413	3,261	152	
包括的支援業務	介護予防ケアマネジメント(特定高齢者)	255	139	▲116	660	548	▲112
	総合相談・実態把握	438	445	▲7	2,000	2,404	▲404
	権利擁護	12	39	▲27	221	254	▲33
	うち 高齢者虐待相談人数	6	16	▲10	113	134	▲21
	包括的・継続的ケアマネジメント	115	85	▲30	678	723	▲45
合計	1,203	1,090	▲113	6,972	7,190	▲218	



② 広島市特定高齢者把握事業

特定高齢者の候補者として選定された者について、生活機能に関するチェックリストの結果等を踏まえ、別に定められた基準に基づき、参加することが望ましいと考えられる介護予防プログラムを判定する。事業実施に当っては、介護予防ケアマネジメントと一体的に実施する。

平成 26 年度事業実施状況

	26年度	前年度	対比
特定高齢者の判定	212	125	87
プログラムの判定(初回分)	42	29	13
プログラムの判定(継続分)	44	64	▲20
金額	452,160	408,300	43,860

③ 広島市地域介護予防推進事業

虚弱高齢者等が要支援・要介護状態になることを予防し、地域活動等に継続して参加することができるよう、地域の虚弱高齢者等のニーズに応じた介護予防に関する教室、講演会を公民館、集会所等の対象者が参加しやすい施設で年 24 回を上限に実施する。

平成 26 年度事業実施状況

内容・開催場所別一覧

	内 容	日 時	場 所	人 数
1	口腔機能	7月3日	八幡公民館	7
2	口腔機能	8月4日	観音台公民館	14
3	口腔機能	8月29日	坪井荘	4
	口腔機能 集計			3 25
4	低栄養	6月12日	八幡公民館	11
5	低栄養	6月19日	坪井荘	49
6	低栄養	6月25日	観音台公民館	13
	低栄養 集計			3 73
7	転倒予防	5月8日	八幡公民館	20
8	転倒予防	5月14日	観音台公民館	20
9	転倒予防	5月30日	坪井荘	14
10	転倒予防	6月13日	薬師が丘集会所	35
11	転倒予防	6月28日	坪井荘	34
12	転倒予防	9月10日	観音台公民館	19
13	転倒予防	9月22日	坪井公民館	13
14	転倒予防	10月16日	八幡公民館	34
15	転倒予防	10月31日	坪井荘	6
16	転倒予防	11月12日	観音台公民館	22
17	転倒予防	1月23日	薬師が丘集会所	25
18	転倒予防	11月14日	八幡公民館	27
19	転倒予防	2月13日	八幡公民館	13
20	転倒予防	3月9日	三宅中集会所	30
	転倒予防 集計			14 312
21	認知機能	5月9日	三宅中集会所	63
22	認知機能	7月11日	月見台集会所	26
23	認知機能	2月5日	八幡公民館	19
24	認知機能	2月18日	観音台公民館	11
25	認知機能	2月19日	坪井荘	62
	認知機能 集計			5 181
	合 計			591

場 所	回 数	人 数
八幡公民館	7	131
観音台公民館	6	99
坪井荘	6	169
三宅中集会所	2	93
薬師が丘集会所	2	60
坪井公民館	1	13
月見台集会所	1	26
合 計	25	591

④ 広島市高齢者いきいき活動支援訪問事業

事業の利用が適当であるとの決定を受けた者の居宅を訪問し、生活機能評価に関する課題を総合的に把握し、利用者に必要な支援を行う。

対象者がいないため、実績なし

(1) 介護予防支援業務

① 利用者の状況

(ア) 利用者数月別推移と外部委託件数

26年度は、1月当たりの平均利用者数で、前年を29.3人上回っている。外部委託件数は、平均26.7件増加あり、委託比率は59.1%で、前年比3.7%増。

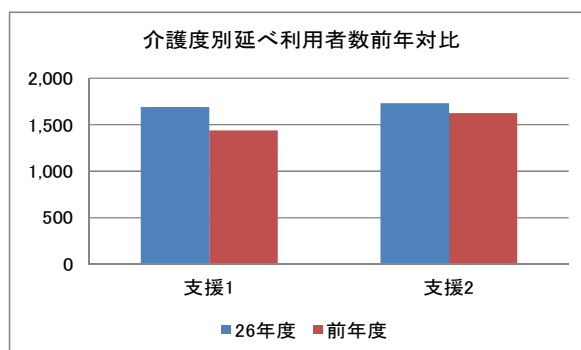
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
26年件数	267	268	269	274	278	288	286	288	302	296	296	307	284.9
26年委託	159	157	154	161	168	173	170	169	179	174	173	184	168.4
26年%	59.6	58.6	57.2	58.8	60.4	60.1	59.4	58.7	59.3	58.8	58.4	59.9	59.1
前年件数	253	254	252	258	253	255	256	259	261	254	256	256	255.6
前年委託	122	117	119	149	141	145	146	151	155	149	152	154	141.7
前年%	48.2	46.1	47.2	57.8	55.7	56.9	57	58.3	59.4	58.7	59.4	60.2	55.4



(イ) 介護度別利用者延べ利用者数前年対比

介護度別では、要支援1・2 いずれも前年を上回った。要支援1の増加傾向が大きい。

介護度	支援1	支援2	合計
26年度	1,689	1,730	3,419
%	49.4	50.6	100
前年度	1,439	1,628	3,067
%	46.9	53.1	100
対比	250	102	352



II. 事業計画の実施状況について

地域包括支援センター部門 平成 26 年度部門目標

- (ア) 介護予防給付 直営 120 名(必置職員 40 件、介護予防プランナー80 件)
- (イ) 地域ケア会議の開催
- (ウ) 特定高齢者の把握と介護予防事業への支援
- (エ) 医療介護の連携
- (オ) 介護支援専門員に対する支援

(ア) 介護予防給付 直営 120 名(必置職員 40 件、介護予防プランナー80 件)

平成 27 年 3 月末の時点で、直営 123 件(必置職員 48 件、介護予防プランナー75 件)、居宅支援事業所への委託が 184 件となっている。

(イ) 地域ケア会議の開催

- 地域ケア会議を 5 回開催した。二つの地区民協・ケアマネジャーとの地域ケア会議は定例的となり、高齢者に関する情報を持ち寄って共有することができた。
- 「個別事例課題を通じての地域課題を解決」というテーマでの開催では、個別課題が地域課題と直結しているという状況が、地域関係者の意見から見出すことができた。

(ウ) 特定高齢者の把握と介護予防事業への支援

- 特定高齢者の把握をするためのスケジュールを作成し、全職員が確認できる場所に掲示した。そのことで、お互いの進捗状況をチェックすることができた。結果として、85%の把握ができた。
- 介護予防事業の PR については、参加者が少ない二つの地区社協の協力を得て、回覧版に合わせて案内チラシを配布していただき、周知が図れた。

(エ) 医療介護の連携

- 医療連携室に依頼して開催できた、地域内の病院・施設等の見学会に地域団体の方が参加され、入所待ち状況における介護予防の大切さを知ることができた。また、このことにより、介護予防の研修会やサロン等で、リハビリ職を招いての介護予防教室の開催へと繋がった。
- 11 月に圏域内の医師とケアマネジャーとの意見交換会(ワールドカフェ方式)を開催し、医療と介護の連携について、まず顔の見える関係を築くことができた。
- 3 月に圏域内の医療連携室・老人保健施設の相談員と包括で、連携における現状や今後の課題をテーマに意見交換会を開催した。

(オ) 介護支援専門員に対する支援

- 新人(3 年未満・10 名)ケアマネジャーの研修会を、事例検討・高齢者虐待防止・介護予防マネジメントを内容として 4 回開催した。

(カ) その他

- 啓発事業として、下記の研修会を開催し好評を得た。

平成26年度 消費者被害予防、男性介護者の集い等地域向けの講演会				
1	消費者被害	12月18日	八幡公民館	19
2	消費者被害	12月20日	坪井公民館	32
3	消費者被害	2月26日	観音台公民館	13
	消費者被害 集計	3		64
4	男性介護者の集い	12月10日	観音台公民館	22
5	男性介護者の集い	3月16日	坪井公民館	22
	男性介護者の集い 集計	2		44
	合 計			108

III. 職員の状況

地域包括 職種	平成26年度期首		H26年度期中		平成26年度期末	
	人数	常勤換算	採用	退職	人数	常勤換算
保健師	1	1			1	1
社会福祉士	2	2			2	2
主任介護支援専門員	1	1			1	1
介護支援専門員	2	1.6			2	1.6
合計	6	5.6	0	0	6	5.6

IV. 苦情処理状況

平成 26 年度は、苦情等なし。